

電気のふるさと

佐賀県玄海町 特集号



トップにきく

岸本 英雄さん × 新 欣樹

(玄海町長)

(電源地域振興センター理事長)

PICK UP!

交流からふくらむ新たな価値を見つけて

～ふれあいをパワーにして前進する玄海町～

My Angle ～専門家の視点から～

特産品開発に必要な視点と手順とは何か

センター掲示板

「エネルギーシンポジウム in 柏崎・刈羽」が開催されました ほか

ご当地自慢

玄海海上温泉パレア



トップに
きく

佐賀県玄海町

岸本英雄さん × 新欣樹

(玄海町長)

(電源地域振興センター理事長)

かつて石炭とともに繁栄し、石炭とともに衰退した玄海町。その後、原子力発電所の誘致でよみがえった。農漁業を活かした他地域との交流、観光によるまちおこしなど新しい取り組みに挑戦する岸本町長にお話を伺う。



玄海町長
岸本英雄さん

昭和28年生まれ。平成7年佐賀県議会議員に初当選。県議会議員を11年間務めながら、玄海町商工会会長、玄海町観光協会会長、玄海町総合開発審議会会長、唐津上場商工会会長などを歴任。平成18年8月に玄海町長就任。現在2期目。

■佐賀県玄海町 (人口: 6,738人 (H17国勢調査より) 面積: 36.01km²)

九州北西部佐賀県の東松浦半島の中央に位置し、西は玄界灘、北・東・南は唐津市に接しています。青い海、緑の山、清流の川と自然の景観に恵まれた美しい町です。町の北部に位置する玄海原子力発電所は九州初の原子力発電所であり、九州の約27% (H21実績) の電力をまかっています。

■原子力関連施設

玄海原子力発電所

出力: 347.8万kW (1~4号機計) 運転開始: 昭和50年10月 (1号機)
事業者名: 九州電力株式会社

■今号の表紙

玄海町の風景 (大: 浜野浦の棚田、小上: 秋の有浦地区、小下: 三島神社秋の例祭)





全国トップクラスの高品質の牛肉として知られる佐賀牛は人口を超える頭数が飼育されている。



上場台地で作られるハウスみかんは形、味、糖度ともに優れており全国の品評会で1位になったこともある。



町の北部に位置する九州電力(株)玄海原子力発電所は総出力347.8万kWの九州初の原子力発電所。

原子力発電所とともに 半世紀

新・玄海町は昔、石炭で栄えていたと聞いております。石炭鉱業が衰退した後、原子力発電事業の誘致に成功し、町の発展につなげていかれました。その歴史はどうだったのでしょうか。

岸本町長・玄海町は昭和31年、有浦村と値賀村の2村が合併して誕生しました。当時は農漁業のほか炭鉱関連の産業が栄えていました。その後、石炭鉱業が斜陽化すると、過疎化が進み町は衰退していききました。

こうした中、昭和40年に佐賀県より原子力発電所立地の申し入れがなされ、その翌年に町議会は原子力発電所誘致を議決しました。町の発展のきっかけになるものとして原子力発電所に期待したのだと思います。

町議会の誘致決議から50年近くの歳月が流れ、発電所の固定資産税や電源立地地域対策交付金等を支えに町は大きく発展しました。そろそろ国の支援に頼るばかりではなく、国のエネルギー政策に町がどのように貢献できるかを考えるべき時期にしているのではないかと思います。

新・プルサーマル発電については、紆余曲折があつて、結果として、玄海原子力発電所が我が国初となりました。それから1年が経ちますが、

現在の心境をお聞かせ下さい。

岸本町長・発電開始からは1年ですが、平成18年のプルサーマル計画同意からは4年が経ちます。玄海町は原子力発電所の立地地域であることが縁でフランスのグラブリーヌ町と交流しているのですが、フランス人からみるとプルサーマル発電は昔から実施されており驚くことではないようです。以前、グラブリーヌ町を訪問したときに、なぜ日本人はプルサーマル発電の実施で大騒ぎするのかと問いかけられ、戸惑ってしまいました。

玄海原子力発電所でのプルサーマル発電実施に至るまで苦労がなかったわけではありませんが、何の支障もなく運転され、我が国の科学技術のすばらしさを再確認するとともに、日本人として誇らしく感じました。

ウラン資源の節約、廃棄物処理、核不拡散という問題を考えると、当

面の間はプルサーマル発電を避けて通るわけにはいかないのではないのでしょうか。このことを国、県、そして貴センターは国民に強く訴えていくべきです。

新・原子燃料サイクルの関連では、プルサーマル発電とともに使用済燃料の貯蔵が話題になっています。

岸本町長・玄海原子力発電所の使用済燃料貯蔵プールはあと4〜5年で満杯になります。そのため、九州電力(株)はリラッキング(貯蔵プールの大きさは変えず、使用済燃料の間隔を縮めて貯蔵可能量を向上させる工事)の実施について国に許可を求めています。青森県六ヶ所村の再処理工場の稼働が更に2年延長され、使用済燃料の扱いについて町民は不安を感じています。使用済燃料を原子燃料サイクルの中でどう位置づけるのか、国からの具体的な説明がほしいですね。



電源地域振興センター理事長

あたらしく
新 欣樹

昭和18年生まれ。昭和40年、通商産業省入省。科学技術庁長官官房長を経て、中小企業庁長官などを歴任。石油公団理事などを経て日本原子力発電株式会社副社長、平成21年7月より財団法人電源地域振興センター理事長。

農畜産物、海産物に 恵まれた豊かな町

新・玄海町では農業と漁業を中心とした地域づくりに力を入れていらっしゃると思いますが、特産品について御紹介して下さい。

岸本町長・玄海町は自然環境に恵まれ、美味しい食べ物がたくさんあります。

第一に推奨したいのが佐賀牛です。全国トップクラスの高品質の牛肉として最高級ブランドを誇っています。玄海町では人口を超える頭数の牛が飼育されており、その多くが佐賀牛として日本全国のみならず米国や香港に出荷されていきます。宮崎県で口蹄疫が発生したときは、消毒や立入制限などの措置を講じましたが非常に不安でした。結果として宮崎県だけで収めてもらって助かりました。

第二に推奨したいのがハウスみかんです。玄海町のハウスみかんは形、



玄海町の漁業は真鯛やフグを中心とする養殖で、町の西部に広がる仮屋(かりや)湾は佐賀県一の鯛の養殖場となっている。

味、糖度とも優れており、全国の品評会で1位となりました。玄海町は上場台地と呼ばれる標高100〜200mの低い山々からなる丘陵地帯に位置しています。上場台地の土地はやせている上に降水量が少なく、植物にとつて厳しい土地なのですが、こうした土地だからこそ美しいみかんが作れるのです。

ほかにも、「さがほのか」ブランドで有名ないちご、メロン、たまねぎ、じゃがいもなどが栽培されており、農産物の宝庫といえます。

新・海産物では真鯛が有名ですね。

岸本町長・玄海町では真鯛の養殖とフグの養殖が盛んです。近年、海水温が上昇し養殖が難しくなったり、流通市場での販売価格が下落したりして、漁業者は厳しい環境におかれています。お隣の唐津市呼子町のイカのように、玄海町の真鯛とフグも全国ブランドに育成し漁業者の収入の底上げをはかっていますね。
新・農業と漁業を他地域との交流にも活用していらっしゃるようですが。
岸本町長・体験型の修学旅行で都市部の中高生を対象に体験民泊を実施しています。中高生には佐賀牛や鯛のえさやり、イカさばきなどの作業を通じて農家・漁家の日常生活を体験してもらい、地域の人々との交流を深めています。



平成11年に「日本の棚田百選」に認定された浜野浦の棚田と夕日。正面に夕日が沈む5月の連休前後には多くの観光客が訪れる。

都市部の中高生からは、玄海町の暮らしは驚くことが多く、貴重な体験をさせてもらったと好評を博しています。一方、受入側の農家・漁家からも、自分たちが当たり前と思っていたことが都会の子供たちにとっては新鮮なものであるということに気づき、自分たちの地域のすばらしさを再確認させられたと喜びの声が上がっています。

観光によるまちづくり

新・玄海町の棚田は農林水産省の「日本の棚田百選」に選定されています。私も写真を趣味にしております。前回玄海町にお伺いしたときに棚田の稲穂が頭を垂れたところを写真に収めることができました。また、水をたたえた棚田の後ろに海に沈む夕日が映え、沈みゆく夕日が棚田と海を照らしている5月頃の写真も拝見いたしました。たいへん美しい風景です。

岸本町長・「浜野浦の棚田」ですね。250枚程度の小規模な棚田ですが、すばらしい景色を楽しむことができます。他地域の棚田には雄大で男性的なものが多いのですが、浜野浦の棚田は妖艶で女性的なものです。妖艶さでは日本一の棚田だと思います。この美しい棚田を全国の皆様にご覧いただき、妖艶さを生で感じてほしいものです。

この棚田はNPO法人地域活性化支援センター(ファッションデザインナーの桂由美さんが理事)の展開する「恋人の聖地プロジェクト」において聖地に認定されています。棚田を見下ろす展望台には多くのカップルが訪れ、時には結婚式も行われています。若い人たちのみならず、年配のご夫婦も数多く訪れていらっしゃいます。

水を張った棚田の後ろに夕日が沈み、妖艶な雰囲気が一番味わえるのは5月の連休中ですが、このときにはカメラマンが300人以上集まっています。たいへん混雑します。



仮屋湾に面する玄海海上温泉「パレア」の展望露天風呂から見る夕日は絶景。

新・西洋発祥の科学技術を象徴する原子力発電所の近くに日本の原風景といえる棚田が存在し、どちらも注目に値するのですが、両者はあまりにも対照的ですね。

岸本町長・玄海町を訪れる人には原子力発電所と棚田のギャップに驚き、感動していただきたいと思っています。それから玄海町には海上に突出した温泉施設である「玄海海上温泉パレア」があり、温泉の薬効や展望露天風呂から見る夕焼けなどを堪能することができます。

原子力発電所付属の「玄海エネルギーパーク」、浜野浦の棚田、玄海海上温泉パレアはいずれも玄海町を南北に走る国道204号沿いであり、唐津を起点とする観光ルートに組み込まれています。今後これらの観光資源に「薬用植物栽培研究所」と「玄海町次世代エネルギーパーク」が加わります。

新・薬用植物栽培研究所と玄海町次世代エネルギーパークは核燃料サイクル交付金を活用していると伺って



小学6年生を対象に実施されている「少年の船」。日韓交流の歴史を学ぶことにより親善交流を図っている。

おりますが、どのような施設でしょうか。

岸本町長・薬用植物栽培研究所は九州大学と共同で7割以上の漢方薬に配合され、また醤油、一部の化粧品などにも用いられている「甘草」をはじめとする各種薬草の栽培研究を実施する施設です。「甘草」は日本に自生しておらず、ほぼ100%を中国などからの輸入に頼っています。来年5月にオープンする予定ですが、薬草の栽培研究をおこなう日本初の施設ですので観光の目玉になるのではないのでしょうか。栽培研究が成功した暁には、「甘草」の量産、薬膳料理や薬草風呂などの開発、製薬会社の誘致など、観光を含めた様々な産業の振興や雇用拡大が期待できます。

玄海町次世代エネルギーパークは次世代を担う子どもたちが風力や太陽光などの自然エネルギーや水素エネルギーなど次世代のエネルギーにふれることで、日々のエネルギーのある暮らしや地域とのつながりに気づき、理解する「学びの場」を創出することをねらいとしています。できるだけ多くの人々に来場していただきたいので、子どもが楽しめる遊園地の施設、お年寄りが楽しめるゲートボール場やグラウンドゴルフ場を設けたいと考えています。玄海町次世代エネルギーパークは平成24年度にオープンする予定です。

今後の課題と展望

新・岸本町長は今年7月、無投票で町長に再選されました。合併を回避して自主独立路線をとる中で住民の定住化を図るという課題等があると思いますが、今後の町政に向けた抱負をお聞かせください。

岸本町長・玄海町は平成15年6月に唐津・東松浦合併協議会から離脱し、自主独立路線を選択しました。合併すると、きめ細かい行政サービスの提供が難しくなり、また玄海町民としての一体感が失われてしまうのではないかという町民の不安が背景にあったのではないかと思います。玄海町でも少子高齢化、人口減少が続いており、将来にわたり玄海町として存続できるかどうかは予断を許しません。地元に住む人の誇りや自信を大切にしていきたいと考えています。

それから、人材育成に力を入れていきます。年間50人程度しか生まれていませんが、子どもたちは未来を支える大切な宝物です。現在、中学3年生まで医療費を無料化しているほか、塾のある唐津市に行かなくてもすむように補修授業を実

施しています。将来、理工系、原子力系の大学など高等教育機関を設置したいと考えています。**新**・最後に何か強調しておきたいことなどございますか。

岸本町長・玄海町には原子力発電所、農畜産物、海産物など自慢するものはいろいろありますが、何となく玄海町で育った子どもたちが町一番の自慢です。玄海町の子どもたちは純粋さと、互いに助け合う心をもっています。繰り返しになりますが、この子どもたちこそ町一番の宝であり、自慢です。

新・子どもたちがいつまでも純粋さと誠実さを失わず、玄海町の将来を担っていく人材に成長していくのを楽しみにしております。本日はありがとうございました。



交流からふくらむ新たな価値を見つけて

ふれあいをパワーにして前進する玄海町



修学旅行(中学生)の民泊受け入れをきっかけに、いま住民が、町が、みるみる活気づいている。多彩な自然に恵まれた風土を活かしながら、様々な交流を通じて未来を模索する玄海町の活動をクローズアップした。



【写真】
 中央：浜野浦の棚田で挙げられた結婚式
 ①：「恋人の聖地」に認定された浜野浦の棚田
 ②：展望台の鐘付きのモニュメント
 ③：ATA事業の体験プログラム「養殖場での給餌体験」
 ④：漁業を交流プログラムに組み入れる
 ⑤：上場地域で収穫される「棚田米こしひかり」
 ⑥：浜野浦の棚田で売られている「らぶ絵馬」
 ⑦：佐賀牛の牧舎での給餌体験

概要

「唐津くんち」や唐津焼などで知られる唐津市に囲まれた玄海町が、ここ数年前から交流事業に積極的な活動を見せ始めた。修学旅行生民泊での盛り上がり、地元の魅力の見直し、住民グループの結成、新しい観光交流拠点の建設計画など…。なぜ、いま町は交流事業に力を入れ出したのか、こうした事業はどんな効果をもたらしたのか、そして将来にどんな展望をもっているのか。町の現状と取り組みの本質に迫る。

CHAPTER 1 (P.8)

町を自覚めさせた修学旅行生の民泊

宿泊する生徒たちとの交流で、いきいきとしてきた住民たち。そもそも修学旅行生の受け入れを始めたきっかけは何か、その内容はどんなものなのか。この活動に町や住民はどう取り組んでいるのか。民泊は町を活気づけるとともに、どんな効果をもたらしたのか。

CHAPTER 2 (P.9)

外からのエネルギーをパワーに変えて

玄海町での体験に驚き、喜び子供たちを見て、住民は何を考えたのか。民泊を現場で支える人たちはどんな活動をしているのか。交流という取り組みの中で、町の代表的な観光資源である棚田を守る人たちの思いとは。観光交流と結びつけた棚田のバックアップ法とは。

CHAPTER 3 (P.10)

人・もの・心を結んで大きな明日を

まちおこしに大切なのは、まず地元の魅力を再発見し、町の資源、ひとつひとつを結んで大きな資源にすること。町の発展と住民の幸せのために、行政は外部との交流をどう捉えているのか。そして将来のためにどんな方策を考え、進行させているのか。

唐津観光協会のATA事業 (Area Tourism Agency)

観光には、地元の人を外部へ連れて行くアウトバウンド型と、外部の人を地元へ連れてくるインバウンド型がある。(社)唐津観光協会では、着地型観光と呼ばれるインバウンド型の促進を目的として、平成19年4月にATA事業部を設立し、旅行業第三種(国内旅行)の登録をした。

その活動の柱のひとつとなっているのが、現地体験型の修学旅行。唐津・玄海エリアには海・山・川などのバラエティに富んだ自然があり、大陸との交流文化の歴史があり、都会にない人々の暮らしがある。これらの魅力を活用し、エリア内の農山漁村での民泊を軸に様々な「体験プログラム」をオプションとして、中学・高校の修学旅行を誘致している。

すでに平成21年度には、関西・関東から約2,400人の生徒が唐津・玄海エリアを訪れ、今年度は4,000人に達すると予測されている。エリア内でもとくに修学旅行の受け入れは、玄海支所が盛んである。

【主な「体験プログラム」】

- 玄界灘での船釣り ■イカの一晩干しづくり
- 地引き網体験 ■いちごジャムづくり
- 牧場見学と佐賀牛を使ったマイバーガーづくり
- イカダによる川下り ■養殖場での鯛のエサやり
- 秀吉のつくった名護屋城めぐり など



牧場見学と佐賀牛を使ったマイバーガーづくり



魚のおろし方を学ぶ



玄界灘での船釣りを楽しむ

町を目覚めさせた修学旅行生の民泊

生徒たちとの交流で盛り上がる
玄海町

5月から6月の修学旅行シーズン、玄海町はにわかに活気づく。大勢の中学生が、体験民泊で町へやってくるからだ。生徒たちを受け入れるのは、町内にある普通の民家。農家や商家もあれば、漁師の家もある。それぞれの家に3〜4名ずつ振り分けられた子供たちは、家族の一員として家業の手伝いをするこも。たとえば畑仕事をしたり、漁船の掃除をしたり：そして一緒に食事をして語りあう。その他にも魚釣りやイカの干物づくり、いちごジャムづくりなどのプログラムで、玄海町の魅力を体験できる。都会では味わえない田舎暮らしに、子供たちは大喜びだが、喜んでるのは彼らだけではない。受け入れる住人たちも、純真な笑顔や驚く姿にパワーをもらい、町



(社)唐津観光協会 ATA事業部
事業部長 古賀道伸さん

がいきいきとしてきたのだ。

きっかけは唐津観光協会の
ATA事業

平成19年、唐津観光協会がATA事業を立ち上げた。その活動の一環として推進されたのが、現地での民泊を中心とした体験型修学旅行の誘致だった。

「唐津・玄海エリアは、多彩な自然環境と大陸との交流の豊かな歴史を持ち、しかも福岡や長崎といった大都市の中間地点に位置しており、教育旅行の行程を組みやすい。まさに修学旅行を呼ぶのにぴったりなのです」と語るのは、唐津観光協会ATA事業部事業部長の古賀道伸さん。協会は、唐津・玄海地区の魅力を牽引する様々な体験プログラムを開発。これをオプションとした民泊付きの修学旅行を企画した。民泊のノウハウについては、先進地域として知られている大分県安心院町グリーンツーリズム研究会や南信州観光公社を視察したという。基本的な取り決めとして、生徒1人当たりの料金は1泊2食付きで6000円。1軒に宿泊する生徒の数は4名程度で、食事・風呂は民家が負担する。決し



玄海町役場 産業振興課
課長 小野茂行さん

て収入は多くないが、お金には換えられない喜びがあり、一度生徒を迎えるとまた呼びたいという民家が多いという。また子供たちにも好評で、体験型修学旅行は人気を呼んでいる。

「他のエリアでも受入民家が増えています。玄海町は盛んになっていますね。今は修学旅行がメインですが、将来は一般客をターゲットにした体験型民泊ツアーにも本格的に取り組んでいきたいと考えています。外から人が入ってくることに経済効果は、やはり大きい。飲食店や土産物屋、バスやタクシーなどの交通といった様々なサービスなど、地域内でビジネスがふくらんでいきます」と、古賀さんはますます意欲的だ。

地元への意識の高まりが
町と地域をつなぐ

玄海町が修学旅行の受け入れを始めたのは、平成21年（昨年）の5月。年間の民泊受入軒数は55軒だった。

今年70軒が登録しており、4月から6月までに718名の中学生を受け入れている。

「今年と同じ上場地区と呼ばれる近隣の旧3町（呼子町、鎮西町、肥前町）で一緒に受け入れている状況です。当初は民泊の話を持ちかけても、なかなか引き受けてくれる家はありませんでした。ところが一度やってみると、楽しくてまたやりたいたいという家が多く、クチコミでどんどん広がっています」と語るのは、玄海町役場産業振興課長の小野茂行さん。役場も補助金などで修学旅行の受け入れをバックアップしている。また、この活動を住民の側から支えているのが、数年前から各所で結成された「まちおこしグループ」だ。現在、町には「玄起海」「都玄海」など、7〜8の住民グループがある。農家から勤め人までメンバーの職種は様々で、40代から50代が中心になっている。

「修学旅行生の受け入れは、住民を活気づけました。それとともに気づいていなかった町の魅力や、町の将来のことを、自分たちで考える



民泊受け入れ先での食事。田舎ならではの家族大勢での食事に都会の子供も食が進む。

機会になったことが大きいですね。さらにこの取り組みは町内の人と人をつなぎ、玄海町と近隣の町とを

つなぐ役割も果たしていると思えます」と、小野さんは民泊による交流の効果を語る。

CHAPTER 2

外からのエネルギーをパワーに変えて

子供たちの驚きが喜びとなり 励みになる

「町では普通のことには子供たちが驚くので、こちらもびびくりです」と楽しそうに話してくれたのは、唐津玄海体験型旅行受入推進協議会の溝上孝利さんだ。住民グループ「玄起海」の副会長でもあり、自らも生徒たちを受け入れている。たとえば近くの空地で花火をするとか、釣ってきたイカをすぐにさばいて料理するとか、お爺さんお婆さんや幼い子も一緒に、家族大勢で食事をするなど、何でもないことに都会の子供は大喜びするという。

「そもそも初めて会った他人から、家族のように接してもらおうことがう



唐津玄海体験型旅行受入推進協議会
みぞうえ たかし
玄海支部長 溝上 孝利 さん

れしいようです。人と人とのふれあいに飢えているのかもしれないね。たったの1泊2日なのに、最後は涙の別れになることも多いですよ。帰った後にも感謝の手紙や作文が送られてきたり、中には礼を言うために親御さんと共に再訪問してくれることもあります。もう、やみつきになってしまいます」と溝上さんは語る。また一方では受入民家同士の横のつながりもでき、体験プログラムを工夫するアイデアの交換が行われるなど、新しいコミュニティも生まれている。

ATA事業部の玄海支所が 現場をサポート

住民たちの生徒受け入れを現場でサポートしているのが、唐津観光協会ATA事業部・玄海支所のメンバーたちだ。民家への受け入れのお願い、各家庭への生徒の振り分け、歓迎式・解散式の実施、体験プログラムの調整、移動の手配や場所の確保など、細かな実務作業を受け持っている。



(社)唐津観光協会 ATA事業部・玄海支所
わきやまなるみ
脇山 成美 さん

玄海支所の脇山成美さんはこう語る。「事務的なことだけでなく、持病やアレルギーがないか、苦手なペットがないかなど、泊まる子供たちの情報を事前に受け入れ先の家庭にお知らせする心配りも、大切な役目のひとつです。子供たちにとって修学旅行は大切な思い出。受け入れ作業はいろいろと大変ですが、玄海町を知ってもらい、喜びにあふれた顔を見ることで十分報われます」

修学旅行の民泊（1泊2食）では、生徒1人当たり4800円が受入先に支払われる。商売としてやるわけではないが、や

＊「浜野浦の棚田」と「上場産こしひかり」

平成11年に「日本の棚田百選」に認定された浜野浦の棚田は、戦国・江戸時代から山を切り開き、石を積み上げて作られてきた。現在283枚の棚田があり、平均勾配は1/7（7m進んで1m上がる）、総面積は11.5ヘクタール。玄海町を縦断する国道204号沿いには展望台が設けられ、その壮麗な景観が一望できる。玄界灘に沈む夕陽が田の水面をオレンジ色に染める春の景色、蒼い空と海に黄金色の稲穂がコントラストを成す秋の景色など、四季折々に魅力ある姿が楽しめる。

玄海町のある東松浦半島の北部台地は“上場台地”と呼ばれ、この地域の棚田で作られる早期米（8月中旬出荷）は、美味な「上場産こしひかり」として知られている。とくに浜野浦の棚田で作られる米は、朝晩の寒暖差の大きさ、海からミネラルをたっぷり含んだ潮風を受けるなど、おいしい米ができる条件に恵まれており評判が高い。



上場産の「こしひかり」の刈入れ作業

はりお金が入ることは住民の励みになっているともいう。始めてまだ2年目。今は盛り上がりつつあるが、これからが大事だと脇山さんは気を引き締める。

町屈指のビュースポット 「浜野浦の棚田」を守る

玄海町はこれまで、あまり積極的に観光交流事業に取り組んでこなかった。その中で先駆的に行われたのが、平成13年から3年間にわたる



浜野浦柵田組合
組合長 吉田 豊 さん

「浜野浦の柵田周辺の整備事業」だった。浜野浦の柵田は、日本の柵田百選に認定されたビュースポットで、観光客用に周辺の展望台、連絡歩道、駐車場、公衆トイレなどの整備が行われた。その時に柵田の持ち主たちによって、柵田とその景観を守るために結成されたのが「浜野浦柵田組合」である。「柵田は1枚当たりの面積が狭く、形も不揃い。大型の機械は使えないので、植え付けにも収穫にも時間と労力がかかります。たとえば高齢で作業が困難な場合は近くの組合員が作業したり、みんなで農道の管理をするなど、助け合って柵田を守っています」と語るのは、浜野浦柵田組合組合長の吉田豊さん。組合では他にも、展望台からの景観に配慮して菜の花の種を蒔いたり、小学生の体験学習のために柵田でソバを栽培し、収穫・粉挽き・試食会を開催するなどの活動で柵田の保全に努めて

きた。しかし若い世代の農業離れ、米作りの採算の問題などで耕作放棄地が増えているのが現状だ。「このままでは柵田がなくなってしまう。長い時間をかけてつくられた美しい景観が失われられないよう、住民グループと町の行政が力を合わせて守らなければならぬと思います」と吉田さんは熱く語る。玄海町でも柵田のオーナー制や、おいしい柵田米としてのブランドづくりなど、柵田保全のための様々な取り組みが検討されている。

柵田を観光名所「恋人の聖地」としてバックアップ

浜野浦の柵田の魅力を、観光交流と結びつけて活かす取り組みも進められている。平成19年4月、デザイナーの桂由美や華道家の假屋崎省吾らで構成される選定委員会が「プロポーズにふさわしいデートスポット」として選んだ「恋人の聖地」のひとつ（全国100カ所中の44番目）に、浜野浦の柵田が認定された。これを機会に、町と観光協会、そして地元の若い主婦たちによって結成された「玄海町恋人の聖地プロジェクト」がスタートした。修学旅行生の民泊受け入れで活躍している、玄海支所の脇山さんもメンバーの一人だ。展望台にはハートを象った鐘付きのモニュメントを町営で設置してい

るが、そのデザインを手がけたのも、脇山さんを含む7人のメンバーだ。「ハート形のらぶ絵馬（300円）やお守りらぶばわ（500円）も、メンバーが手づくりして販売しています。訪れるのは、やはりカップルや若い女性が多いですね」と脇山さん。正面の海に落ちる夕陽が田の水面に映える5月上旬には、10日間で約3000人がやってくるとい

CHAPTER 3

人・もの・心を結んで大きな明日を

様々な交流は「まちおこし」のきっかけ

原子力立地市町村である玄海町は、現在は財政的に恵まれていると言える。しかし少子高齢化や人口の減少などの課題を抱える町の前途を考えると安閑としている状態ではない。一部の住民もそれに気づいており、ここ数年で住民グループの活動が盛んになっているのもその現れだと、玄海町役場財政企画課長の古館保弘さんは語る。

「修学旅行生の民泊受け入れは、住民が自分の町を改めて見直すきっかけになりました。まちおこしに大切なのは、まず地元を再発見し、その上で外に対する意識を高めること。それは住民も役場の職員も同じ

クリスマスやバレンタインの時期には、モニュメントのまわりにイルミネーションを施す試みも行われた。「旅行雑誌に広告を出したり、柵田を背景に現地で結婚式を挙げたりと、アピールもいろいろしています。たくさんの方に浜野浦の柵田の魅力を知ってもらうことで、柵田の保全をバックアップできたらと考えています」

です。ATA事業など外部との交流は、その良い手段になります」

交流促進に必要なのは町のPRだが、外に知らせるためにはまず自らが町を知らなければならぬ。歴史・文化、農作物・海産物、料理、暮らしなど様々な要素の中から、町特有の「資源」を発見し、その価値を創造していくのがポイントとのこと。交流は確かに町を活性化させる。だからと言って、ただ交流人口を増やせばいいというわけではないとも古館さんは言う。

「交流は住民を活気づけ、経済的な効果を生み出します。でも忘れてならないのは、交流は手段であって目的ではないということ。目的はあくまで住民の幸せなのです」

点と点を結びいっしょにぶくむ交流の効果

玄海町には浜野浦の棚田、露天風呂・温水プール・レストランを備えた施設「玄海海上温泉パレア」、見て遊んで楽しく学べる「玄海エネルギーパーク」、自然の釣り堀「飯屋湾遊漁センター」や「つりセンター玄海」、蛸の名所である「轟木公園」、数多くの文化財・史跡など様々な観光拠点がある。いちご、キンショウウメロン、上場産こしひかり米、佐賀牛、シロウオ料理などの特産物もある。さらに現在、新しい拠点として「玄海町次世代エネルギーパーク」と「薬用植物栽培研究所」が建設中だ。

「それぞれの『資源』は小さくても、その点と点を結んでいけば大きな資源になります。これを交流によってふくらましていくのです。また交流による新たな価値創造という視点では、物質的な豊かさや心の豊かさの2つの面を考えなければなりません。経済的な振興とともに、住民たちの



玄海町役場 財政企画課
課長 古館 保弘さん

やりがいや希望を創出していきたい」と古館さんは語る。たとえば次世代エネルギーパーク内には、あえて飲食施設は作らず、パークの近くに町民による飲食店を誘致したり、パーク内で食べる弁当を町内の店が供給する。また薬用植物栽培研究所で培った技術を用いて、休耕地に薬草畑を作り、薬草作りを町の新しい農業のひとつに育てる。薬草を薬膳料理や温泉の薬湯に利用し、玄海町の新しい名物として売り出すなど、将来に向けての方策を検討している。

「やはりある程度ビジネスとして成立し、真剣になれるものでなければ、やりがいは生まれてこないと思います。行政としてはいろいろな仕掛けを考え、住民の理解を得ながら一緒に汗をかきながら実施していきたい」と、古館さんは意欲的だ。玄海町では将来を見据えて、人づくり（教育環境づくり）にも力を入れていく。小学6年生を対象とした

生を対象とした

★玄海町次世代エネルギーパーク(仮称)

風力、太陽エネルギーなどの自然エネルギーをテーマにした施設で、平成24年4月にオープン予定。子供たちが次世代のエネルギーにふれて、日々の暮らしや地域とのつながりに気づき、理解する「学びの場」を創出することを目的としている。たとえば水を電気分解して取り出した水素をエネルギーとして走るカートやバギーに乗ったり、太陽光発電で温めた足湯につかるなど、楽しく体験しながら自然エネルギーについて学べる。



完成予想図

また学習と交流の場であるとともに、玄海町の魅力をアピールする機能も発揮できるよう企画されている。近隣に薬用植物栽培研究所が建設され、連携により集客の相乗効果も期待される。

★薬用植物栽培研究所(仮称)

玄海町と九州大学との共同プロジェクトとしてスタートした「漢方薬の原料・薬草の栽培研究開発事業」の核となる施設。平成23年にオープン予定で、完成すれば日本初の薬草栽培の国産拠点となる。研究施設であるとともに、一般向けの観光薬草園でもあり、薬膳料理や薬草風呂などの開発で観光業、飲食業への波及効果も期待されている。

中心的に栽培する薬草は甘草で、漢方薬のほか醤油・味噌などの甘味料としても多くの需要がある。しかし日本には自生しておらず、中国やモンゴルからの輸入に依存しているため、栽培技術が確立されれば玄海町のオリジナルブランドとなる。他にシャクヤク、トウキ、ステビアなども栽培される予定で、農業をはじめ様々な地域振興に貢献する大きな可能性を秘めている。



完成予想図

豊かな未来へと続く 本物のレールを探し出す

韓国でのホームステイ「玄海町少年の船(旅費の半分を補助)」や、中学生を対象としたアメリカでのホームステイ「中学生海外派遣事業」(研修費の8割を補助)、「奨学資金制度」(大学生なら月額6万円・4年間貸付)が広く活用されている。さらに薬用植物栽培研究所で、中国からの輸入に頼っている甘草の栽培技術が確立した場合の、製薬会社を中心とした

企業の誘致も視野に入れている。「未来に続くレールはいろいろあるけれど、その中で町の幸せにつながる本物のレールを見つづけるのが行政の役目だと思います」と古館さん。町の資源を再発見し、交流によってふくらむ新たな価値を模索しながら明日を見つめるー行政と住民が力を合わせて歩み出した玄海町のことからが楽しみだ。

~ 専門家 の 視点 から ~

本財団では、電源地域の抱えている課題の克服や問題の解決に向けて、地域振興に関する各分野の専門家による現地指導や各種調査を実施しております。そうした地域振興専門家の活用ポイントなどを専門家自ら紹介していただきます。

テーマ

特産品開発に必要な視点と手順とは何か

講師



有限会社 五十嵐ソーシャル・マーケティング

いがらしのりこ

代表取締役 五十嵐 宣子 さん

神奈川県川崎市在住。福岡県北九州市生まれ。大学卒業後、マーケティング等の書籍英和翻訳。2年間の米国滞在後、調査会社にて、経済企画庁の調査、毎日新聞社フォーラムの企画等。その後、株式会社ヤスマ・マーケティング研究所主任研究員として、各地域の観光振興計画、特産品開発、施設改善計画等に携わる。1999年 有限会社 五十嵐ソーシャル・マーケティングを設立。

最近の興味分野は、観光と特産品を結びつけた地域活性化、施設経営改善計画、グリーンツーリズム、住民グループ指導など。「地域のことは地域の人が一番良く知っている」を前提に、地域の声を引き出しながら、ニーズに合った選択肢を示し、協働で計画を立てて実現に向けて指導するのがモットー。

「特産品をどう作ればいいのか」については、おおまかに3つの手順があります。

「特産品をどう作ればいいのか」については、おおまかに3つの手順があります。

「特産品をどう作ればいいのか」については、おおまかに3つの手順があります。

質問1.. 電源地域交流の中で「特産品を作りたいのだが、そのためには何に気をつけてどう作ればいいのか」という質問を各方面より頂きます。特産品を作る際には、どういった考え方で作ればよいのでしょうか。

Point

消費者目線で開発しお金を落としてもらう仕組みを地域ぐるみでつくる

案件

本財団は、アドバイザーの現地派遣、マーケティング調査等を実施し、特産品開発・販売を支援しているが、地域の実施主体者としては、最初に「特産品を活用して自らの住む地域をどう活性化したいのか」という視点を獲得し、その上で消費者ニーズをつかみ開発手順を考える必要があると思うが。

第1ステップは、消費者ニーズを知ることです。日本の消費環境は、日本が物質的な豊かさを実現したと言われた1980年代以降、大きく変わりました。それ以前は、欲しいモノは皆ほぼ同じ、生活必需品を大量生産すれば売れました。しかし、必需品が手に入らなくなれば、後は個人個人で買いたいと思うものが異なってきました。この「価値観の多様化」により、メーカーは多様なニーズに合う多様な商品を少量ずつ生産するようになりました。「多品目少量」です。

これを地域特産品に置き換えてみると、今の時代、皆さんが思い描くような爆発的ヒットは望めないということと、大量に作っても売れにくいことがお分かりいただけると思います。

では、今の消費者ニーズは具体的にどのようなか。今、食品に求められている傾向をキーワードで言いますと、「健康によいもの」「薄味」「バランスのよい多品目食品」「無添加、有機栽培、

農業不使用」「開封後改めて包丁を入れるなどの手間を省いたもの」「こだわり商品」などでしょう。食品以外には、「デザイン性」が求められます。

この他、今、注目を集めているのが、皆さんの地域の「本物」です。ご当地番組ブームを背景に、地域特産品は、価値を説明すれば、暖かく受け入れられるようになりました。今こそ、地域の本物の特産品を売り出すチャンスです。また、売り方の範疇に入りますが、家族の少人数化が進んでおり、「食べきりサイズの少量パック」にしかただけで売上げが伸びる例が続出しています。

質問2…消費者が何を求めているかを知るのには難しいと思うのですが、どうやったら消費者ニーズをつかむことが出来るのでしょうか。

五十嵐さん…開発しようとしている商品を総務省『家計調査年報』等でチェックすれば、市場規模が分かり、今後の消費予測がつかえます。食品なら、デパ地下等で都市住民のニーズが分かかります。テレビの情報番組も役立ちます。常にアンテナを張っていれば、今、どういう社会変化が起きているから、今後はこういう商品が売れるのではないかと嗅覚が発達してきます。

ターゲットが決まっている場合は、ヒアリングやアンケート、グループインタビュー等で具体的なニーズが把握できます。

特産品開発の第2ステップでは、消費ニーズに照らして可能性のありそうな特産品候補を調べ、競合品と見比べて、その実力を客観的に判断します。

私の場合は、「オンラインワンに近い」「差別化できる」「定評がある」「一般的」「規格外」の5つに分類します。「一般的」や「規格外」でも落胆することはありません。実力に応じた方法があるのです。一番良くないのは、商品力を診断せずに、適当に商品開発して販売してしまうことです。

第3ステップは、特産品開発の核の部分です。分類された個々の産物・産品について、「ウリ」「ターゲット」「販路」を設定し、販路にふさわしい「加工品計画」を立て、「PR計画」「営業計画」で販売をサポートします。

「ウリ」の設定は重要です。「この大根はうまいんだ」と言うからには、どこがどのようにどのような理由で美味しいのか答えられなければ、商品の魅力は伝わらず、商品力に見合った価格で売れることは出来ません。

「販路」の設定も重要です。販路は商品の実力に応じて自ずと決まってくる部分が多いですが、その際、価値を高めるような販路・売り方を選択することが重要だと思います。今は、一般流通経路の他、直接取引が飛躍的に伸びており、利益率が高いだけでなく、地域活性化にもつながりやすく、地域の顔も見えやすいので、積極的に取り

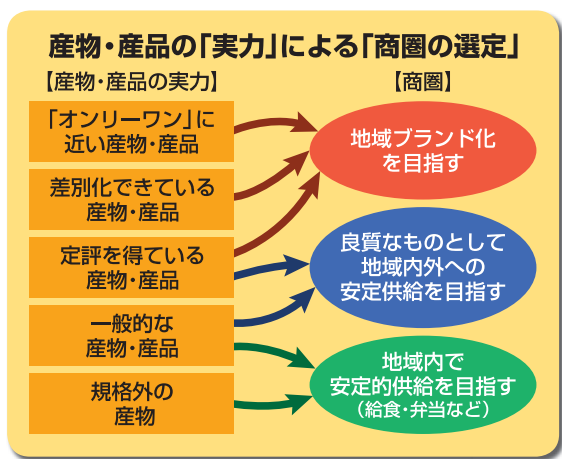
組むようアドバイスすることが多いですね。

「加工品開発」は最も難しい部分ですが、ターゲットや販路が決まれば、商品開発の方向性も見えやすくなります。「誰がどういう時にどういう風に使うか・食べるか」を考えて作ると、自ずと「顧客志向」になりますので、うまくいくと思います。

PRと営業は、地域では余り取り組まれていませんよね。せっかく良い商品ができて、商品の良さを伝えなければ、商品がないのと同じ。そういう勿体ないことをしている地域は多いですね。商品には口がありませんから、PR、営業は不可欠です。

質問3…商品開発以前のそもそも論として、地域の特産品を活用して「自分達の住む地域をどう活性化したいか？」と言う視点を持つべきということかと思うのですが、電源地域としては今後どういう視点で地域振興を進めていくのが良いのでしょうか。

五十嵐さん…特産品開発という観点から言うと、外販するか、来て買ってもらうか、外販するにしても、という選択肢があると思いますが、後者の直接販売をもっと重視してもいいと思います。日帰り観光客が求める「自然」はほとんどの電源地域にありますから、体験などの「すること」を充実させ、しっかりPRすれば、特産品も料理や



お土産として地域の経済振興に結びつけられる可能性が大きいと思います。(社) 日本観光協会の『観光の実態と志向(平成19年度版)』によると、宿泊観光の1人当たりの「土産代」は5120円、「観光行動費」は7820円。少なく見積もっても、1人当たり5000円は地域に落としてもらえるはずと考えてよいと思います。その金額をしっかりと落とし、ここに来たら、何を買ってほしいのか、何を食べてほしいのか、何をしてほしいのかを戦略的に打ち出していく必要があると思います。観光による経済効果の可能性は大きく、地域にお金を落とすことは火急に取り組むべき重要な課題だと思っています。



「エネルギーシンポジウム in 柏崎・刈羽」が開催されました

去る11月29日(月)、30日(火)の両日、新潟県柏崎市・刈羽村において、「エネルギーシンポジウム in 柏崎・刈羽」が開催され、全国の原子力立地市町村から自治体職員、地域振興関係者および開催地の柏崎市や刈羽村の住民約300名が一堂に集いました。



初日、開会式における会田柏崎市長の挨拶

初日の開会式では横尾英博資源エネルギー庁電力・ガス事業部長、会田洋柏崎市長、品田宏夫刈羽村長の主催挨拶の後、神保和男新潟県副知事の後援挨拶、実施主体として清水正孝財団法人電源地域振興センター会長(電気事業連合会会長・東京電力株式会社代表取締役社長)の挨拶がありました。講演会では資源エネルギー庁代表による政策紹介や、開催地柏崎市の紹介、関満博一橋大学大学院教授の基調講演



2日目、新潟工科大での意見交換会



初日、パネルディスカッションにおける品田刈羽村長

やパネルディスカッション(コーディネーター…中村浩美氏、パネリスト…品田村長、関教授、崎田裕子氏、横尾部長)が行われ、国の政策や柏崎市の現況、原子力市町村のまちづくりについての意見が交わされました。

2日目は、開催地柏崎市と刈羽村の直売所などの各施設を巡り、参加者と地域振興関係者との意見交換会が開かれました。

【お問い合わせ先】

(財)電源地域振興センター

振興支援部 普及啓発課

電話：03・6372・7312



「でんきのふるさと」イベントが新宿と有楽町で開催されました

去る10月29日(金)、30日(土)の2日間、東京・新宿駅西口地下にある新宿駅西口広場イベントコーナーにて「でんきのふるさとふれあいの森」イベント(主催…省エネルギー・新エネルギー普及啓発実行委員会)を開催しました。

このイベントは、首都圏に電気を供給する電気のふるさとである福島県・新潟県の紹介を行うことで、都民を中心とする首都圏の方々に、電気のふるさとの様々な伝統文化や特産品を知っていただき、日常利用している電気のふるさとに思いを寄せてもらうことを目的に企画されました。会場内の特産品や新鮮な野菜の特設販売ブースでは開店前から通勤前のビジネスマンやイベントを知って駆けつけた方々で賑わっておりました。同時に、各地の郷土芸能も特別に会場にて執り行われ大勢の通行人の注目を浴びておりました。その他にも電気に親しむクイズラリーやペダルを漕いで動かす電気機関車、今注目



「でんきのふるさと ふれあいの森」のオープニングセレモニー



「でんきのふるさと 福島浜通りげんき祭りinごはんミュージアム」

の電気自動車に見入る親子連れも多くおられました。

また、11月22日(月)、23日(火)の2日間にわたって、東京・有楽町駅近くの東京国際フォーラム内ごはんミュージアムで、「でんきのふるさと 福島浜通りげんき祭りinごはんミュージアム」も開催されました。

これは首都圏の皆様にも「でんきのふるさと」とも言える福島県浜通り(双葉町、大熊町、富岡町、楢葉町、広野町)を観光案内や物産販売を通じてもっと知っていただきたいという思いを込めて、地元の特産品や観光のPRを中心に、賑やかなステージやパネル展示等で福島県浜通りの元気を届けようとするものとなりました。

【お問い合わせ先】

(財)電源地域振興センター

振興支援部 普及啓発課

電話：03・6372・7312



講師を派遣します「講師派遣事業」実施のご案内

当財団では経済産業省資源エネルギー庁から『原子力有識者等活用事業』の委託を受け、全国の地方自治体や各種団体からの要請に応じ、講演会、シンポジウムなどへ、エネルギーや原子力に関する最新の専門知識や情報をお持ちの専門家を講師として派遣しています。

■派遣実施期間

平成22年4月～平成23年3月

■費用

講師派遣に関する経費(講師の旅費、謝金、資料費等)については当センターが負担いたします。

■申込方法

講師派遣申込書に必要な事項をご記入の上、電子メール、FAX、郵送にてお申し込みください。申込書は、当センターのホームページに掲載してありますので、ご利用ください。

なお、詳細につきましては当センターのホームページに掲載しておりますのでご参照ください。

【お申し込み・お問い合わせ先】

(財)電源地域振興センター
振興業務課 振興業務課
電話：03-6372-7305
eメール：youbou@dengen.or.jp まで
ホームページ：
<http://www2.dengen.or.jp/html/works/haken/index.html>



産品相談・商談会を現地で開催!

今年度より、現地開催型の産品相談・商談会を実施しています。各市町村からのご要望に応じて企画・開催できる事が魅力です。

■各方面への大きなメリット

●開催自治体は地域の特産品や事業者の取組などを一度にPRできる。

●参加事業者は遠方へ出向く必要が無い為、時間・費用を節約できる。

●バイヤーは販売・生産現場も見学し、より一層地域を理解できる。

■開催事例

和歌山県の「田辺周辺広域市町村圏組合」からの委託を受け、田辺市・みなべ町・白浜町・上富田町・すさみ町を対象に、11月9日(火)、10日(水)に実施いたしました。東京から百貨店2社のバイヤーが訪問し、2日間で18社という多くの事業者と面談しました。応募者の競争率が約2倍と人気があったこともあり、来年度も開催を検討しております。周辺地域と合同で広域の参加も可能で、お問い合わせ・ご相談は随時受け付けております。

【ご相談・お問い合わせ先】

(財)電源地域振興センター
振興支援部 販売支援課
電話：03-6372-7310
ホームページ：
<http://www2.dengen.or.jp/html/works/hanbai/sanpin.html>



今号のプレゼント

今号の「トップにきく」にご登場いただきました玄海町役場のご厚意により、農事組合法人中山牧場の人気商品「佐賀牛黒毛和牛のすき焼き肉(ランプすき焼き)」を5名様にプレゼントいたします。

■プレゼント応募方法

とじ込みのアンケートはがきに必要な事項をご記入して郵送

もしくは、当センターのホームページ(文末参照)の入力フォーム内のアンケートにご記入の上、「送信」ボタンを押して送信してください。

×切は平成23年1月31日。アンケートはがきは当日消印有効です。当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。

【アンケートおよびプレゼントに関するお問い合わせ先】

(財)電源地域振興センター
振興支援部 普及啓発課
電話：03-6372-7312
ホームページ：
<http://www2.dengen.or.jp/html/leaf/furusato/enquete.html>

「電気のふるさと」フォトコンテストの実施について

当財団では、電源地域における人々の暮らしをテーマに写真を募集します。電源地域で暮らす人々の日常生活、訪れる人々が楽しんでいる姿、地域の人々が誇りに感じている風景など、生活感にあふれる写真を期待します。

■募集のご案内

詳しい実施内容は当センターのホームページをご覧ください。意欲的な作品の応募をお待ちしております。なお、応募された作品は厳正なる審査の上、最優秀賞および優秀賞を決定します。審査結果は平成23年6月、当財団のホームページおよび「電気のふるさと Vol.24」にて発表します。最優秀賞作品の応募者には3万円相当の賞品を、優秀賞作品の応募者には1万5千円相当の賞品を贈呈いたします。

【お問い合わせ先】

(財)電源地域振興センター 電気のふるさと編集室
電話：03-6372-7312
ホームページ：<http://www2.dengen.or.jp/html/works/photocon/index.html>



【「佐賀牛黒毛和牛のすき焼き肉(ランプすき焼き)」に関するお問い合わせ先】
農事組合法人 中山牧場
〒847-1431
佐賀県東松浦郡玄海町普恩寺912
電話：0955-52-5051 FAX：0955-52-5052
ホームページ：<http://www.ii29.com>

▶右側の海上に突き出た部分が温浴・トレーニング施設。左側はお食事処となっている。



▼お食事処では玄海町の海の幸や山の幸を楽しむことができる。



▲展望露天風呂の目の前には仮屋湾が広がる。



玄海海上温泉パレア

げんかい かいじょうおんせん

風光明媚な仮屋湾^{かりや}に面した施設の半分以上が海の上に建てられた文字通りの海上温泉で、展望露天風呂から眺める夕日はまさに絶景。家族風呂やプール、トレーニング室、リラクゼーション室など、疲れた心と体を癒してくれる設備も充実しており、併設されているレストランでは玄海の海の幸や旬の幸が味わえるほか、個室や研修室を借り切つての宴会なども可能で「見て、食べて、遊んでよし」の至福の時間を満喫できるところとなっている。

海上温泉パレアの天然温泉の泉質は刺激の少ない単純温泉で、子供や年配者でも安心して入浴でき、神経痛・筋肉痛・関節痛・冷え性・疲労回復・健康増進・慢性消化器病などに効能がある。

【開館時間】午前 10 時～午後 10 時

【休館日】年中無休

【温泉入浴料】入浴料 (1 日): 大人 500 円、子供 (4 歳以上、小学生以下) 300 円 家族風呂: 露天 (50 分) 1,500 円、露天無 (50 分) 1,000 円 ※家族風呂利用の際は、別途温泉入浴料が必要。

【施設利用料】プール (1 日): 大人 500 円、子供 (4 歳以上、小学生以下) 300 円 トレーニング室 (1 人 1 日): 300 円

【個室・研修室利用料】個室 (和室): 基本料金 (50 分) 1,000 円、延長料金 (30 分毎) 500 円 研修室 (1 部屋): 基本料金 (50 分) 1,000 円、延長料金 (30 分毎) 500 円 研修室 (3 部屋一括): 基本料金 (3 時間) 3,000 円、延長料金 (30 分毎) 1,000 円

【貸器具使用料】カラオケ 1,500 円、プロジェクタースクリーン 2,000 円

■お問い合わせ先

玄海海上温泉パレア

佐賀県東松浦郡玄海町大字石田 1369-3

TEL.0955-52-2411 FAX.0955-52-5028

ホームページ <http://www.town.genkai.saga.jp>

■交通

福岡 (博多駅) から市営地下鉄・JR 筑肥線で 85 分、昭和バスで 60 分、自家用車で 50 分で唐津駅へ、唐津 (大手口) から昭和バスで 35 分、自家用車で 30 分。

佐賀駅からは JR 唐津線で 75 分、昭和バスで唐津駅へ 70 分。唐津 (大手口) から昭和バスで 35 分。自家用車だと佐賀駅から玄海海上温泉パレアまで 90 分。

